

継続用法は、経験用法(have been to)よりも「過去形と何が違うのか」がわかりにくい用法です。理屈で説明する前に、「昔から今もずっと」の実物を見せるのが一番早い。この授業案は、教師の使い込んだ愛用品(ボロボロの辞書、10年もののパンケース)を見せながら語るオーラルイントロダクションを核に、時間の線分図の板書、How long のインタビューまでを1コマで運びます。

この教材で解決できる悩み

- I use this for ten years. と現在形で書く誤りが直らない
- 「継続」「経験」「完了」の用法名が先行して、意味の実感が伴わない
- for と since の使い分けの定着が悪い

教材の概要

項目	内容
対象	中学3年(NEW CROWN 3 Lesson 5)
文法項目	現在完了・継続用法(for / since / How long ~?)
形式	授業案A4・3ページ＋線分図の板書案＋インタビューシート
所要時間	50分×1コマ
準備物	教師の「長年使っている物」を2～3点(これが本体です)

授業の流れ(50分)

オーラルイントロダクション: 愛用品の披露(12分)

使い込んだ実物を見せながら語ります。

- Look at this dictionary. I bought it 15 years ago.(過去形)
- I have used it for 15 years.(現在完了)
- I have used it since I was a college student.

「buyは過去形なのに、useはなぜ違う形？」と問いを立て、買ったのは一瞬・使うのは今もずっと、という対比に気づかせます。物がボロボロいほど、for 15 years に説得力が出ます。

板書: 時間の線分図(8分)

過去形(点)と現在完了・継続(過去から今まで伸びる線)を1本の時間軸の上に描き分けます。この図は単元の間ずっと黒板の隅に残し、以後の用法(経験＝線上の点々、完了＝線の終点)もすべて同じ軸に描き足していきます。用法ごとに図を変えないことが、3用法を1つの「haveの世界」として理解させる鍵です。

展開: How long インタビュー(22分)

シートの質問(How long have you played ~? / lived in ~? / known your best friend?)で3人にインタビュー。答えは For ~ years. / Since ~. の短答でOKとし、数字を聞き出すこと自体をゲーム化します(「最長記

録の人を探せ」)。

まとめ(8分)

「クラス最長記録」(習い事12年、親友歴9年など)を発表し、その文を全員で唱和して終了。板書の線分図を写して本時は終わりです。

for と since は「for+長さ／since+始まり」と説明するより、インタビューの答えを黒板に2列に振り分けさせるほうが効きます。for three years / since 2020 が10個ずつ並んだ表を見た生徒は、ルールを自分の言葉で言えるようになっていきます。帰納的に気づかせて、最後に一言で確認、の順です。

定着への接続

次時の帯活動は「先生クイズ」: How long has Mr. ~ worked at this school? など教師陣の勤続年数・愛用品を当てるクイズにすると、三人称のhasへの移行が笑いの中で済みます。学年の先生に取材しておくとう盛り上がり倍になります。